

# 第 1 回九州森林・林業セミナーを開催!

## ～ スギ再造林の低コスト化を目的とした育林コスト予測手法 及び適地診断システムの開発～



中村支所長

7 月 29 日、九州森林管理局大会議室において、熊本県や森林組合、森林管理局の職員をはじめ、NPO 法人や業界新聞社等のマスコミ関係者など約 70 名が参加し、第 1 回九州森林・林業セミナーが開催されました。

セミナーは、森林・林業に関する先進的な研究や取組を行っている研究者や森林・林業関係者が一堂に集まり、森林の持つ多面的機能の発揮や林業の持続的かつ健全な発展等に向けた知識や情報等を共有し、関係者相互の森林・林業技術と知識のレベルアップを図り、新たに開発された林業技術や先進的な取組の普及を目的に九州森林管理局が主催したものです。

まず、津元頼光局長が「今回のセミナーのテーマである低コスト育林は森林・林業関係者が克服しなければならない最大の課題。今日のセミナーを契機に、参加していただいた産・学・官の皆さんが一体となって、課題を克服する技術やシステムの開発に努めて頂ければ幸いです」とあいさつ。



津元局長

セミナーは、育林分野の低コスト化をテーマに、独立行政法人森林総合研究所九州支所の中村松三支所長が「スギ再造林の低コスト化を目的とした育林コスト予測手法及び適地判断システムの開発」と題して講演を行いました。

今回の演題は、平成 21 年度新たな農林水産政策を推進する実用化技術開発事業に応募し採択された課題で、コンテナ苗や大苗を用いた植林作業の機械化技術の開発。低コストな雑草木刈り技術とシカ食害軽減手法の開発。最適な低コスト作業方法の選択を可能とする再造林システムの開発により、再造林コスト

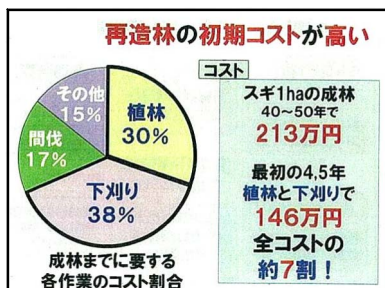


岸川企画官

を従来の 50% (50 ~ 60 万円 / ha) に削減する取り組みについて説明されました。

また、当局の岸川企画官が森林技術センターで実施している技術開発課題「高性能林業機械・コンテナ苗を活用した低コスト育林に向けた実証試験」の実施状況を報告しました。

業界関係者等の質問も相次ぎ、改めて低コスト育林の重要性を認識したセミナーとなりました。次回のセミナーは列条間伐をテーマとして、10 月下旬頃開催する予定です。



**達成目標**

- 従来型の再造林手法を抜本的に見直し、
- 植栽後 4~5 年までの植林・下刈りのコストを従来の 50% 程度まで削減する。
- そのための実用化技術や支援システムを開発する。

**コンテナ苗の特徴**

メリット

- 活着率が高い
- 育苗時の床替、根切、除草作業が不要である
- 植栽前に仮植するの要がない
- 時期を選ばずに植栽できる

デメリット

- ヤシガラ繊維等の特殊な培地が必要



## インターンシップ受け入れ

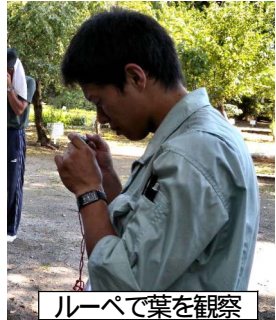
# 九州大学院生が国有林で就業体験!

九州森林管理局では8月20日から26日にかけて、インターンシップ生（農林水産省就業体験実習）を受け入れました。

今年森林管理局の職場を訪れたのは、見るからに健康そのもの、精悍な表情の九州大学大学院修士課程1年生の中間康介さんで、指導普及課の業務を中心に就業体験しました。



ネイチャーゲーム



ルーペで葉を観察



しっかりフォロー

実習内容は、まず初日に九州国有林の概要の説明を受け、2日目以降はインターンシップ期間中に行う指導普及課のイベント、第3回実践・公開講座及び先生方の「森の塾」の事前準備や当日のスタッフ業務をはじめ、森林技術センターの技術開発試験地の見学などを行いました。特にスタッフ業務では、生き生きとした表情で一般参加者や小学校の先生方のお世話をしている姿には大変好感が持てました。

一週間の就業体験の中で一番印象に残ったことは、皆さんの方から自分自身の仕事に誇りを持っていて、その姿を見ていると、敬意を抱くことが多くありました。

志望理由：大学で学んだ技術や知見が林野庁を通して地域住民や林家の方々にどのように普及されているのか、その実務に興味がありました。また、森林管理局の実務を経験することで、職業選択の方向性を定めていきたいと思い、国有林の職場を選びました。



九州大学大学院修士課程1年の中間康介です。生物資源環境学府で林学を専攻しています。趣味は野球です。

森林技術センター見学では、広葉樹植栽や耐陰性スギなどの試験地を見学し、「広葉樹を植栽した場合の病虫害対策」や「耐陰性スギ植栽のコスト削減」等に興味を示し、熱心に技術センター職員に質問するなど案内した職員の皆さんも感心した様子でした。

最終日は、海外研究者の講演会を聴講し、インターンシップの取りまとめを行った後、指導普及課の職員へ敬意と感謝の言葉をさわやかに述べ帰路に着きました。指導普及課では、今回のインターンシップが中間さんの職業選択に少しでも役に立てばと願っています。

### 第2回実践・公開講座



7月26日、監物台樹木園みどりの交流館において、第2回実践・公開講座「森林の公益的機能を知ろう」（絵手紙）を実施しました。

講座には、24名が参加。指導者の九州森林インストラクター会の松野親人さんが、まず森林の役割と地球温暖化の関係について講義。参加者は森林・林業の重要性を認識したようでした。

後半の絵手紙では、松野さんから絵手紙を描くときのコツを伝授されると、参加者の皆さんは自信を持った様子で、夏野菜や花などを題材にイキイキと

した作品に描きあげました。

最後に額に入れみんなで講評を行いました。額に入れると一段と立派に見え皆さん大満足の様子でした。



松野親人さん

# 先生方の「森の塾」

8月24日、監物台樹木園において、小学校の先生方を対象にした「森の塾」企画係長を開催しました。

今回で13回目となる森の塾には、市内の六つの小学校から10名の先生方が参加。井野指導普及課長補佐が「この塾は夏休みを利用し、小学校の先生方が森林・林業への理解を深め、学校で

の森林環境教育に生かしていただくことを目的に実施しています。楽しみながら学習して下さい」とあいさつ。

まず堂園緑の普及係長が局署の森林環境教育の取り組み事例を説明した後、森林・林業についてのクイズや一人一人が木の枝や幹などの木の各部位になって1本の木を作るゲームを実施。先生方は歓声を上げながら、たくましい人間の木を作り上げると緊張も一気にほぐれた様子でした。



人間の木

午後8時、九州森林インストラクター会の安樂さんと荒木さんを講師に迎え、自分がどんな生き物になってるか当てる「私は誰でしょう」や自然の中に紛れ込んだ人工物を見つける「カモフラージュ」といったネイチャーゲームを実施。先生方は童心に返ったような表情で取り組んでいました。



成果品を手に記念撮影

樹木観察では、先生方は樹木の特徴や見分け方などの説明に熱心に耳を傾け、一日生徒になりきり真剣にメモを取っていました。



ネイチャーゲーム

最後の意見交換では、「森林環境教育といても具体的なイメージが湧いてこなかったが、今日の塾は大変

## 行事予定

- 10月24日 西表森林環境保全シンポジウム
- 10月25日 第4回実践・公開講座「草木染め」

## PRは庁舎入口から

情報紙や木製イス、プラントナーなどを展示して指導普及課をPR

九州森林管理局の庁舎入口には、各課の取り組みを来庁者にPRするために、課で取り組んでいる業務に関する刊行物や印刷物、パンフレットなどを展示するブースが設けられています。展示は、各課の順番で期間は1ヶ月間。8月1日から1ヶ月間、指導普及課が担当となり、玄関右側の2箇所に展示しました。

展示物の内容は、まず1箇所目のブースには、森林技術センターの平成21年度重点課題は、



局玄関脇のPRブース

や情報紙「みどり」と技術だより」、「情報みどり」いりおもての森から」などが、2箇所目のブースには、「山学校みどりの教科書」や森林環境教育用のパンフレットとともに、実践・公開講座で作成した木製のイスやプラントナー、本立てなどを展示し、来庁者の人目を引きました。

# 「地域の林木育種の現況と課題」



ルイス・アビオラーザ博士

8月26日、九州森林管理局において、海外研究者講演会が行われ、ニュージーランドカンタベリー大学のルイス・アビオラーザ博士が「地域の林木育種の現況と課題」と題し、「ニュージーランドの林業と林木育種戦略の概要」と「ラジアータパインにおける材質の早期選抜」について講演されました。

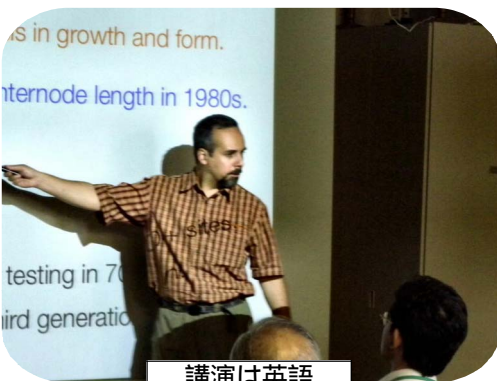
意見交換も行われ、参加者からの質問「1ヘクタール2,500本の植栽から800本とした理由は」に対し、同博士は「選抜育種した形状の良いものを植栽すると間伐の必要が無く、植栽本数の低減や育林コストの削減に繋がる」と答えられました。

## 海外研究者講演会

講演会には、九州森林管理局や林木育種センター九州育種場、県の試験研究機関の職員をはじめ、民間林業事業体等の関係者など約30名が参加し聴講しました。

博士によると、「ニュージーランドでは50年間ラジアータパインの育種を行っているが、その材質は本質的には殆ど改良されていない。初期の数十年間は成長や樹形に重点を置いてきた。しかし、一九九〇年代初頭からは、構造材としての強度の改良に力が注がれた。にもかかわらず、材質は殆ど改良されな

かった。材質面での改良を妨げてきた原因として、選抜基準の自己回帰性や選抜基準としての容積密度への偏重、材



講演は英語

今回のような海外研究者の外国語による講演は森林管理局では初めてで、海外の育種や植栽の現況を身近に知る良い機会となりました。

## 旬の花



スイフヨウ  
「酔芙蓉」

## 編集後記

本紙「みどりと技術だより」が今号で、50号の発行となりました。創刊号は、16年前の平成5年8月に発行。同年の組織の再編により当課(指導普及課)が新設され、発行が始まりました。何度か紙面のスタイルを変え、技術情報紙として、国民の森林・林業への理解と森づくりへの参加の推進、地域林業の活性化に資することを目的に発行。過去の記事を見ると、その時々取り組みや、行ったイベントなどがわかります。また、多くの皆様に読んで頂こうと、平成19年10月(第31号)からは、メールマガジン方式で配信を開始しました。これからもなお一層皆様に親しまれる紙面づくりをしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

企画係 古村 理恵子



伝えたい木の文化、残したい美しい森  
「美しい森林づくり推進国民運動キャッチフレーズ」



紙一枚からできる地球への思いやり

~九州森林管理局では地球温暖化防止のため、再生可能な間伐材製品利用を推進しています~